



世界マリアニスト召命の日 2013年

家族で分かち合う

信仰についての感謝

マリアニスト家族は、私たちが受けた招き(あるいは召命)について感謝するよう、チリから皆さんに呼び掛けます。「世の唯一の救い主である主に対する誠実で新たな回心への招き」(『自発教令 信仰の門』2011年10月)である今年は、私たちの人生において信仰と召命を見出すために私たちを助けてくれた全ての人々につき、神に感謝する好機であり、この信仰はイエスご自身から今日に至るまで、人から人へと伝えられてきたものです。私たちを導き、同伴してくれた人々に対して、すなわち、信徒として、結婚した信徒として、修道者として、奉獻されたアリアンス・マリアルの会員としての私たちのマリアニスト召命を見出すのを助けてくれた人々に対して感謝を表明すること。

そうです！信仰と自らの召命を生き抜くことに忠実で、熱意を保ち続けて、神の国は私たちの中にあることを証してくれた人々に感謝すること。長年にわたってマリアニストの使徒職を果たしてきた信徒マリアニスト、修道者、アリアンス・マリアルのマリアニスト家族への感謝。また、私たちの後に来る人々のための働きにおいて私たちがその後に従って行くマリアニスト家族に感謝！

Rebecca Ortega Camboa
信徒マリアニスト
National Asesor, MLC チリ

シャミナード師の召命

サラゴサでの困難な、しかし実り多い追放の年月以来、ギヨーム・ヨゼフ神父は、この新しい時代に適合した新しい手段を取り入れて全フランスを再福音化するために、追放を終えて帰国した折に、実施すべき最適の戦法が何であるべきかを見分け、案を練ったのです。これは、教会が、新しい福音宣教について今日提案するものにとっても良く似通ったものです。

以下の数行 — 1814年10月8日付けの手紙 — は、1800年代から既にボルドーで非常に盛んになっていたこの新しいミッションを、アジャンでも取り組んでいくよう、アデルとその仲間たちに、密かに呼びかけたものです。

「皆さんに私の秘密を残らずお知らせしましょう。私は14年前に、地域ごとの教区長の承認を得たうえでとの条件付きではありますが、私たちのこの不幸な祖国における教皇派遣宣教師という資格をもって、フランスに帰国してきました。私は現在あるような信徒会 (sodality/congrégation) [即ち信徒による運動、現在のMLC] を設立すること以上にこの任務を良く遂行させ得るものはないと信じています。各信徒会員 (sodalist/congréganiste) は、性別、年齢、身分が何であれ、このミッションの積極的なメンバーであるよう求められているのです。」

私たちはキリスト教徒を増加させねばなりません。そしてこの目的のため、私は皆さんにどんな事業を取り入れてはならないか、— 例えそれらは良いものかもしれませんが、信仰を増加させるには役立たないからです — そして優先的に取り組んでいかねばならない事業が何であるかお知らせしましょう。

アデルの召命

メール・アデルは、貴族の称号を持った家族の出身でしたが、質朴、謙遜に生きた女性でした。彼女は神への愛をその家庭でおそわったのですが、それは先ず自分の近くにいる人々への愛から始まりました。彼女はこの愛を、特に、若い人々、貧しい人々の中で実践していきました。彼女は、「私の神なる救い主よ、あなたのいのちを私が生きるようにしてください」と繰り返し唱えながら、成長過程に相応しくその信仰生活を生きました。ですから、シャミナード神父と知り合いになって、彼女はマリアのあり方でイエスに従い、マリアの家族を創設するという召命においてシャミナード師と一つになることができたのです。

アデルは言っています：「会の真の秘密は、隣人の救いと神の栄光への熱誠に満ちた人々を育て上げることです。各人は自分の家族、仕事、隣人、友人に対して自分が置かれた状況において、小さな宣教師でなければなりません。」ですから、私たちは、アデルに倣って神の国のための熱意を奮起させることを躊躇しませんし、彼女のメッセージに耳を傾けることにも同様です：「御摂理が皆さんを派遣する場で、神の愛の網を打ちましょう。神様が皆さんに望まれる所に居ることしか望まないようにしましょう。」

Marcela Vera、信徒マリアニスト



私がサンタ・マリア・デ・ラ・コルディジェラ マリアニスト学院に入ったのは、“良い学校”で勉強したいという私の望みと共に、間違いなく、神様ご自身の働きでした。そこには、アカデミックな勉強に加えて、常に私たちの大切なカリスマがあり、数多くの沈黙の孤独の中で、優しいマリアの手を通して、キリストを発見する数え切れないほどの瞬間や機会を私たちにあたえてくれました。更に、共同体の中で、奉仕を通して、またマリアニスト家族の他の枝との分かち合いによっても、他の多くの機会がありました。

今、私の潜在意識の中でとでも言えば良いのでしょうか、何故とか、どのように、とは合理的に説明できないのですが、この愛と慈しみの普遍的メッセージが少しずつ私の心を燃やして、良きにつけ悪しきにつけ、私の人生の各瞬間に神を認め、若い人々の信徒共同体の同伴を通して、私の振る舞い、行動、言葉をもって恩返しをしたいと望ませてくれます。神から深く愛されていると感じ続けるよう私の信仰を強めてくださいますように、毎日、倦むことなく、私たちの母マリアに祈っています。

Asunción López de Luzuriaga, FMI, マリアニスト・シスター



私はカトリックの家庭に生まれ、ごく小さい時から、マリアニスト家族を知っていました、何故なら、一人の叔父がマリアニストの司祭で、一人の叔母がマリアニストのシスターだったからです。そのようなわけで、私はマリアニストの環境に育ったのです。これらの叔父と叔母に会うのが、いつでも、とても嬉しかったことを今でも思い出します。スペインが大きな困難な状況にあった時代にあって、彼らはとても明るく、イエスの救いの業を証ししていたからです。

成長するにつれて、私が強く惹かれるようになったのは家庭の精神で、ここチリで過ごした33年間に特別なかたちで、この家庭の精神を通して私はマリアを知ること学びました。私にとって、マリアは生き方の模範です。私たちがイエスへと導く方はマリアです。不可能なことに直面して“はい”と応える術を知っておられたこの純真な女性は、私のあらゆる人生の歩みに同伴してくださいました。

私の信仰生活の柱は、祈り、友愛の生活、そしてミッションです。私たちの創立者は「あなた方は、皆、宣教師です」と言われましたが、この言葉はイエスを知らせることを意味します。私が70年間シスターであったのはまさにこの目的のため、すなわち、他の人がキリストに向かって歩む道に寄り添って彼らを助けるためでしたし、この間、私は生活の証しをしてきました。

Francisco García de Vinuesa, SM, マリアニスト修道者



① 私がマドリードの柱の聖母学院の小学生だった時、修道者であるがゆえに祖国を追放されてこの学校に居た年配のフランス人修道士Don Clementeが亡くなったと知らされました。私たちは、夕方、学校を出る時、いつも明るく彼に挨拶していたものでした。私は涙を流しました。

② 中学生になった頃、他の先生が私たちにマリアニストの修道召命について話してくれたのですが、その時、マリアの宣教師であるために、追放されたまま死んでいったこの年老いたフランス人修道者の顔が浮かんできました。私は、柱の聖母の御絵を眺めながら、沈黙のうちに祈りました。“私はマリアニストの修道召命に向いていない”ので、私の仲間たちの中から、多くの良い召命を選んでください、とマリア様にお願いしたのです。

③ 大学に入ったばかりの頃でしたが、私の霊的同伴者が、マリアニスト修道者になるという召命の可能性について真剣に考えるように、と私に話しました。両親に異論はなく、ただ、次のように言って私を驚かせました：「私たちが願

うことはただ一つ、お前が神様の御旨を忠実にやることだけです」。神が望まれる者となり、神の御旨を行なう責任が、すべて私の肩にかかってきたのです！！

58年後の今日、私は堅忍（できた）恩寵を神に感謝しています。



Carmen Orellana, アリアンス・マリアル



私の回心の歩みはマリアとの特別な出会いから生まれました。既に子供の頃の公教要理以来、私はマリアへの強い親近感を感じていました。後に、成人になってから、マリアは、誰であれ将来私の夫となる人のために(どんな妻になるか)の模範であり続けました。私にイエスを見出させてくれたのは、マリアとの深い祈りにおいてでした。その後、子供たちの公教要理の間に、信徒マリアニスト共同体との関係が生まれました。共同体に所属することで、私は自分の信仰を養うことが可能となったのです。夫が亡くなった後、私はアリアンス・マリアルに入会する可能性を見出しました。私が自分の生涯を御主に奉獻できたのは、私を大きな喜びと慰めで満たしてくださった主からの呼びかけでした。

Sylvia Cubillos 及び Alfredo Suau, 信徒マリアニスト

夫婦としての私たちの最大の財産、それは私たちの信仰です。それは、隠すことのできない宝であり、私たちは、ただ、それを私たちの兄弟たち、特に最も貧しい人々と分かち合うことができます。



私たちが一年の大部分を山中で過ごしているのは、偶然によるものではありません。このことを賜物と感じています。私たちは、教会が(決してその存在を)あきらめることのない場所で、教会の現存となっているのです。つまり、ここで生活することはフロンティアに生きているということであり、とても厳しいのですが、とても満足のいくものです。私たちは意気込みを失ったことはありません。私たちはただ、イエスを示し、イエスを知らせ、また、私たちの母マリアを私たちの味方、私たちのミッションの源として紹介しなければならないだけなのです。私たちは、誰であれイエスのみ国のために働きたいと望む人々のために、マリアの模範と愛に依りすがります。私たちの両創立者の助けとマリアニスト家族の連帯を得て、2013年に10周年を祝うこの山の教会で奉仕できて幸せに思っています。



お祈りをリードするための提案

First moment: マリアと共に私の召命(私への呼びかけ)を振り返ってみる。

暫くの間、自らの過去とマリアの模範を振り返る:

- **お告げ:** マリアの“はい”という答えを観想し、自分に問いかけてみる:

私が御主に「はい」と答えることとなった御主との出会いの瞬間はいつか?

私の召命が信徒、修道者、アリアンス・マリアルであることをどのようにして見出したのか?

- **ご訪問:** 御子を宿したまま従姉妹のエリザベトを訪問するマリアを観想し、自分に問いかける:

御主との出会いは私を何処に押し動かしたのか?

そのことから私の生活にどんな個人的、社会的な変化が生じたか?

- **マグニフィカト:** 御主のなされた偉大な業を称えるマリアを観想し、自分に問いかける:

マグニフィカトは私に何を語りかけているか?

私を呼び出してくださった御父、偉大な事をしてくださった御父を称える讃歌をつくってみる。

Second moment: マリアと共に御父を称える。

各人がつくった御父への讃歌を、声をあげて唱えるため、共同体で集合する。

全員が輪になって集合するのが望ましい。それは、お祈りの間に感謝の歌を交えながら、お互いを見ることができるためである。具体的に、光あるいはその他の感情を示すしぐさをするのも良い。

Third moment: マリアと共に、たゆまず御主に従い続ける。

二つの質問に答えるため、小さなグループに分かれて集まる：

主が、今日、私に求めておられるミッションは何か？

このミッションを遂行を助けるマリアニストカリスマの強みは何か？

Fourth moment: 御国のために働き手を御主に求めてミサ聖祭を祝う。

提案：ミサ聖祭の間に、御主の招きとマリアニストカリスマについて感謝を捧げながら、各グループから出された答えを紹介する。

Informaciones – noticias – informations – news – informations –

nouvelles <http://www.marianist.org/>

EL sitio web de la Familia Marianista – THE website of the Marianist Family – LE site web de la Famille Marianiste

...DO WHATEVER HE TELLS YOU

THE MARIANIST FAMILY

Search: GO

FRANÇAIS
Bienvenue sur la page internet de la Famille Marianiste, page qui vient d'être renouvelée une nouvelle fois. Nous vous invitons à explorer les rubriques de ce site et d'y retourner souvent.
++++

ENGLISH
Welcome to the website of the Marianist Family. We invite you to explore the features of this site and return often.
++++

ESPAÑOL
Bienvenidos a la nueva página de la Familia Marianista. Le invitamos a explorar todos los componentes de este sitio y volver con frecuencia.
++++

JOURNÉE MONDIALE DE PRIÈRE MARIANISTE
14 octobre 2012

WORLD DAY OF MARIANIST PRAYER
October 14, 2012

JORNADA MUNDIAL DE ORACION MARIANISTA
14 octubre 2012

FMI - CHAPITRE GÉNÉRAL

FMI GENERAL CHAPTER

FMI - CAPÍTULO GENERAL

SM CHAPITRE GENERAL

SM GENERAL CHAPTER

SM CAPITULO GENERAL

Circular nº3 de la President, CLM
Communautés laïques marianistes :
Une communauté internationale de communautés

MLC President's Circular #3:
Marianist Lay Communities:
An International Community of Communities

Circular nº3 de la presidenta de las CLM
Comunidades Laicas Marianistas:
Una Comunidad Internacional de Comunidades

Copyright © 2011 World Council of the Marianist Family All rights Reserved. Designed by Luke Davies